

## 2022年4月上旬から目黒線において8両編成列車の営業を順次開始

～更なる輸送力増強を実施し、より安心してご利用いただける鉄道を目指します～

東急電鉄株式会社

当社は、2021年5月に策定した中期事業戦略“3つの変革・4つの価値”で掲げる「都市交通における快適性の向上と課題の解決」のため、車両空間の拡充による快適性向上の実現を目指し、2022年4月上旬から目黒線において8両編成列車の営業を順次開始します。

なお、2023年3月予定の東急新横浜線開業までに相鉄線内に乗り入れる当社保有の目黒線全26編成を8両編成化し、新線開業による交通利便性・速達性向上に加え、輸送力増強により快適性を向上することで開業効果の最大化を図っていきます。

当社は、大手民鉄初の取り組みとして、2019年度末までに東急線全駅※にホームドア・センサー付固定式ホーム柵の設置を完了していますが、目黒線の8両編成化に伴い新たに供用する2両分の乗降口においても同様に安全性を維持すべく、ホームドアや防犯カメラ整備などの工事を推進してきました。今般、目黒線全13駅における駅設備の整備および、相互直通先の各線においても8両編成対応工事が完了することから、現行の当社保有6両編成車に2両を増結し、順次8両編成として営業を開始します。※世田谷線・こどもの国線を除く

なお、8両編成化により1編成あたりの定員数は約890人から約1190人に増加(約35%)することで、ウィズコロナ・アフターコロナにおいてもより安心して快適に目黒線をご利用いただけるようになります。また、8両編成列車では乗降エリアが拡大することによりお客さまの乗降時間が短縮し、安定輸送にも寄与することで、より高品質な鉄道サービスの提供を実現していきます。

詳細は別紙の通りです。



▲目黒線の車両(新型車両3020系)



▲追加されたホームドア(新丸子駅)

以 上

【別紙】

目黒線8両編成化の詳細

1. 実施概要

(1) 実施時期

2022年4月上旬以降順次

(2) 対象列車

当社保有の目黒線全車両26編成

(3) 対象列車の8両編成化完了時期

東急新横浜線の開業時(2023年3月予定)

2. 8両編成化に向けて実施してきた工事

- ・全13駅において目黒線の8両編成化に伴い追加される2両分のホームドアを整備し、また防犯カメラも増設することでホーム上の安全対策を実施。
- ・ホーム延伸に伴う警告誘導タイル敷設などの工事や運行に必要な各種装置などの増設工事を実施。

3. 各種車両設備(6両編成・8両編成)



※相互直通先所属車両の場合には一部設置個所が異なる場合がございます。

※ホームページや東急線アプリでご案内しているホーム図も8両編成化に対応いたします。

4. 目黒線における輸送力増強・快適性向上の施策

(1) 今後の目黒線運行計画

- ・2022年3月からは奥沢駅通過線供用開始ならびに目黒線ダイヤ改正の実施により、朝の一部上り急行列車で目黒～日吉間の所要時間短縮を図ります。
- ・東急新横浜線の開業時(2023年3月予定)には、相鉄線内から都心を結ぶ直通列車に当社所属の目黒線8両編成列車も使用する予定です。

(2) 新型車両3020系など、目黒線車両の8両編成化

・目黒線の車両として、2019年秋より新型車両3020系を導入(3編成)しています。車内には空気清浄機を設置し、座席は背もたれの高いハイバック仕様を採用、また、ドア上に配置するデジタルサイネージは、多言語案内の充実を図るとともに、ニュースや天気予報など充実した情報サービスを提供するなど車内の快適性向上を図っています。2022年4月上旬以降順次、新型車両3020系など、現在6両編成にて運行している目黒線車両を8両編成化します。8両編成化に向け増結する中間車両については全車両にフリースペースを設置しバリアフリー対応を強化するとともに、LED蛍光灯一体型の防犯カメラ「IoTube(アイ・オー・チューブ)」を全車両に搭載することで安全・安心にご利用いただける車内環境を提供します。